

Buenos Aires ブエノスアイレス



大西洋に流れ込むラ・プラタ川の河口に位置するブエノスアイレス。建国以来アルゼンチンの政治、経済、文化の中心として栄えてきた

アルゼンチンの首都ブエノスアイレス。海のように広いラ・プラタ川の上流約240km、そして肥沃な大草原パンパの真ん中に位置するブエノスアイレス市の人口は約300万人。ブエノスアイレス州全体ではアルゼンチン全人口の3分の1に当たる約1300万人の人々が暮らしている。ブエノスアイレスはどの州にも属さない「首都特別区」(自治都市)になっている。



商業施設が集まるサン・ニコラス地区はいつも賑わっている。



カヤオ通り(Av. Callao)のクラシックな建物が連なる街並み

19世紀半ば以降にイタリア、スペインを主とするヨーロッパ移民によりブエノスアイレスは飛躍的に発展し、市周辺の広大な草原パンパで生産された穀物や食肉、皮革、羊毛などが港から輸出され、アルゼンチンを「南米の食糧庫」と呼ばれるまでに繁栄させた。そしてこのヨーロッパからの移民達がヨーロッパ風の街並みを造り上げてきた。市中心は道路が100m間隔で碁盤目状に整備され、ヨーロッパの建物を模倣した美しい街並みと独特的の文化によって「南米のパリ」と形容される。街行く人も白人が多く、南米ではないような錯覚をしてしまう。但し人柄は皆ほがらかで、人懐っこいのがボルテニョ(港の人)。

ブエノスアイレスは多様な楽しみがある南米有数の観光都市。市中心地区は治安的な不安も少なく散策にお薦め。歴史的に貴重な建物や通りが多く、老舗カフェを巡るのも楽しい。食もステーキ、ワインを中心に充実し、イタリア料理も本国並みの美味しさ。そして夜にはこの港町で生まれたアルゼンチンタンゴがある。哀愁を帯びたバンドネオンの音色にのり、ときに激しくときに優雅な踊りが旅人を魅了する。



夏のシーズンには多くの大型豪華客船が入港するブエノスアイレス港

気候 (旅のベストシーズン)

ブエノスアイレスとはスペイン語で「良い空気」を意味する。温暖な気候と適度な雨量に恵まれ、四季折々の美しさがある豊かな自然環境の街。

いつでもベストシーズンといえるが、夏(12月~2月)の最高気温は高く、日差しもきつい。そして7月と8月の朝晩は結構冷え込むので、ベストは春(9月~11月)と秋(3月~5月)と思われる。特に11月は綺麗な紫色の「ジャカランダ」の花が街中に咲き誇り美しい街がさらに華やかになる。

右:11月中旬頃からジャカランダが咲き市内は青紫色に染まる



エセイサ国際空港

国際線のほとんどが離着陸する東京に例えるなら成田空港。空港からブエノスアイレス市中心地区までは約35km、車で約40分の距離。現在ターミナルはA、B、Cの3つに分かれている。ほとんどの航空会社はAターミナルを使用している。Cターミナルはスカイチーム加盟の航空会社だけが利用可能で、スカイチーム加盟の航空会社のフライトは全てCターミナルから出発し、スカイチーム加盟の航空会社の国内線はほとんどがCターミナルに到着する。Bターミナルは2021年4月現在ほとんど使用されていない。AとCターミナル間

Aeropuerto Internacional de Ezeiza (EZE)は150m程度の距離だが、ターミナル間連絡通路が造られていないので、1度表に出て、歩いてターミナル移動をすることになる。エセイサ空港からブエノスアイレス市内へは電車、地下鉄はない。市内への移動手段は、「エアポートタクシー」(セキュリティータクシー)が安全でお薦め。税関を出てすぐ、又は到着ロビーに "taxiezeiza" のカウンターがあるので行先を告げ、提示された料金を事前に支払うシステム。エセイサ空港は"白タク"が結構多いので、勧誘てくるドライバーの車には絶対乗車しないように。



毎日、欧米間にたくさんのフライトが離着する南米を代表する国際空港(Aターミナル)。免税店は南米随一と言えるほどブランド品が充実している

ホルヘ・ニューベリー空港 (通称:エアロパルケ)

国内線と国際線発着に使用されている市内の空港。パレルモ公園に隣接していて、市中心地区まで7kmぐらいの距離で、通常時間帯なら車で約15分ほど。現在ターミナルは1つだけだが利用航空会社によって搭乗手続き、到着出口がSector-A、A1、A2、Bに分かれている。国内線で使用頻度が高いアルゼンチン航空はSector-A1にある。各Sectorとも1階が到着階、並びに搭乗手続きカウンター、2階が出発階となっている。市中心地区との間に電車、地下鉄はないので、移動はタクシー利用となる。



市内パレルモ公園に隣接するホルヘ・ニューベリー空港